

平成 28 年度長野市地域包括支援センター事業報告（活動報告）

全てのセンターで運営方針に基づいた事業を実施しておりますが、本報告は、運営方針や計画作成の留意点に記述されていないような各センターで工夫された取組、業務の具体的な取組報告等について概要をまとめたものです。

1 地域包括支援センター業務推進体制

〈自己評価の視点〉

- ①平成 29 年度地域包括支援センター「事業計画」が適切に作成されている。
- ②平成 28 年度地域包括支援センター「事業報告」が適切に作成されている。
- ③3 職種連携によるチームアプローチが適切に行われている。
- ④職員の資質向上に対する取組を適切に行っている。
- ⑤個人情報の取扱い等、情報管理を適切に行っている。

《業務実施事例》

- 事業報告、事業評価を法人理事会で承認を受けて公表 (安茂里、富竹の里)
- 法人内でステップアップ研修に参加し、法令、制度、接遇、危機管理等について自己評価をしながら取り組んでいる。 (安茂里、豊野)
- 24 時間体制で連絡の取れる体制を確保し、夜間休日の緊急対応に備えてきた。 (安茂里)
- 個人情報に関する書類は施錠できる棚に保管している。 (安茂里)
- 包括便りを定期的に発行 (安茂里、ニチイケア)
- 3 職種毎に主務となる内容の研修に参加し、伝達研修を行なっている。 (星のさと)
- 昨年度業務に関し、所属長面談を行い評価を実施 (松代総合病院)
- 院内地域医療連携室も交えてミーティングを行い、意見を取り入れている。 (新町病院)
- 相談ケースによっては初回は複数名で訪問、3 職種で情報共有し主に関わる担当を決めて対応する。進捗状況の報告・検討しながらチームアプローチにより対応した。 (桜ホーム)
- 個人情報管理表を作成し、ケースファイルの持ち出し管理を徹底している。 (きたながいけ)

2 総合相談支援業務

〈自己評価の視点〉

- ①地域における多職種協働によるネットワークの構築とその活用を進めている。
- ②高齢者の実態把握を適切に行っている。
- ③認知症高齢者及び家族への支援に取り組んでいる。
- ④初期対応を適切に行い課題を明確化した上で、各業務へつなげている。
- ⑤公正かつ中立な立場で、継続的・専門的相談支援を適切に行っている。

《業務実施事例》

- 制度の解釈についての相談が多い。特に10月以降は総合事業の相談が主な内容となっている。
(博愛の園)
- 背景には経済的問題があるため、支援が困難になっている。
(博愛の園)
- 認知症学習会等で開業医と顔の見える関係ができたこともあり、医師からの支援依頼がセンターに直接入るようになってきた。
(博愛の園)
- 民生委員との連携を図り、情報を得やすくし、負担感を抱く委員の精神的なサポートを行なった。
(安茂里)
- お茶のみサロンでの講師を務めセンター利用のPR、認知症予防、脳トレに関する講話を行なった。
(安茂里)
- 地区ささえあいネットワーク会議を開催し、地域、関係機関との顔の見える関係づくりに努めた。
(ニチイケア)
- 住民自治協議会の依頼により、「なんでも相談会」を定期的で開催。医療や介護などを中心に公正中立な立場で助言を行なった。
(ニチイケア)
- 月1回の気づきの事例検討会で薬剤師とのネットワークを構築
(星のさと)
- 障害分野の事業所とも連携し、障害サービスから介護保険サービスへの移行がスムーズに行なえる体制を整えるように調整している。
(若槻ホーム)
- 高齢者実態把握情報データを活用し、①実態把握の有無 ②予防給付・総合事業対象者 ③介護サービス利用(移行)者 ④施設入所 ⑤死亡等を色分けし状況が把握できるように工夫している。
(富竹の里)
- 民生委員から「気になる」レベルで相談、連絡をセンターにもらえるようになり、同行訪問を依頼し、対応後についても報告する等して関係づくりに努めている。
(富竹の里)
- 保健センター、障害福祉相談機関との会議を年4回行い、地域の課題や事例を検討
(松代総合病院)
- サービス利用が偏らないよう新規事業所のチラシを法人内MSWと居宅介護支援事業所、包括職員で回覧している。
(松代総合病院)
- 90歳以上の独居を優先的に実態把握を実施
(新町病院)
- 多重問題のある家庭等、困難事例には2人以上で対応
(新町病院)
- 福祉相談窓口マップを関係機関と協力して作成
(わかほ)

3 権利擁護業務

〈自己評価の視点〉

- ①権利擁護に関する啓発活動を適切に行っている。
- ②高齢者虐待への対応において、関係機関と連携した通報、支援体制を整え、高齢者虐待事例への対応を適切に行っている。
- ③成年後見制度、社協の日常生活自立支援事業・暮らしのあんしんサービス事業等の活用を促進している。
- ④消費者被害への対応を適切に行っている。
- ⑤高齢者の権利擁護に関して、職員の資質向上に対する取組みを適切に行っている。

《業務実施事例》

- 成年後見制度利用促進を認知症の支援としてアセスメント項目に入れて、生活全般を見て行く習慣を介護支援専門員ができるようにアプローチしてきた。(博愛の園)
- 訪問している事業者の発見により、消費者被害を未然に防ぐことができたケースがある。訪問介護事業所と連携し、不審な契約書などの発見と解約への支援を実施(博愛の園、安茂里)
- 成年後見制度活用相談を受け社会福祉協議会の日常生活自立支援事業を紹介した。(安茂里、桜ホーム)
- 「詐欺情報」「消費者被害情報」が入った時は関係機関や民生児童委員に情報提供を行なった。管内の事業所にFAXで連絡し注意喚起した。(安茂里、ニチイケア、わかほ)
- 弁護士を交えた支援会議を実施(星のさと)
- 民生児童委員協議会定例会やサロン活動で詐欺被害の情報提供を実施(星のさと)
- ケアマネジャーからネグレクトと身体的虐待の相談がありショートの利用から入所へとつなげる時に後方支援を行なった。(豊野)
- 権利擁護や高齢者虐待について、長野県社会福祉士会主催の研修に参加(豊野)
- 虐待対応は職員2名で対応し警察署に支援を要請している。(松代総合病院)
- 訪問時に消費者被害の注意喚起を行い、未然に被害を防いでいる。消費者被害対応電話の利用が増えてきた。(松代総合病院、わかほ)
- ケアマネジャーと相談し、消費者被害で解約できるものは解約し遠方に住む家族に成年後見制度の説明を行なった。(コスモス)

4 包括的・継続的ケアマネジメント業務

〈自己評価の視点〉

- ①地域のケアマネジャーに対する個別支援を適切に行っている。
- ②地域包括ケアに向けての体制作りを適切に行っている。

《業務実施事例》

- 在宅医療に携わる医師を講師に招いてケアマネ連絡会で研修を実施 (安茂里)
- インフォーマルサービスの構築に向け、住民自治協議会と連携を図った。 (ニチイケア)
- 保健、医療、福祉の代表者が集まる専門職部会を立ち上げた。 (星のさと)
- 個別ケア会議を開催。認知症のある独居高齢者と遠方の家族、地域住民との調整を行い、地域での見守りネットワークを作った。 (コスモス)
- 病院や老健施設の入退所時のケアマネジャーと施設サイドがうまく連携できるようにサポートした。 (きたながいけ)

5 介護予防・日常生活支援総合事業

〈自己評価の視点〉

- ①要支援者等の多様なニーズを把握し、適切なアセスメントのもとに、利用者本人が望む生活という意欲に対して働きかけながらケアマネジメントを進めている。

《業務実施事例》

- 自立支援に向けた活動や社会参加の目標を一緒に考え、期間設定をすることで卒業を意識した取組を働きかけている。興味・関心チェックリストや課題分析アセスメントシートを活用して具体的な目標設定に向けた課題分析を行なっている。 (安茂里、新町病院)
- 目標に対し、サービス利用者が理解した上で達成のために必要なサービスを主体的に利用して取り組めるよう支援している。卒業後の受け皿が今後の課題 (星のさと)
- サービスを利用する本人の意欲向上を目指した働きかけを行ないながら、1人1人にあったケアマネジメントの実施に努めた。 (わかほ)
- 居宅介護支援事業所のプランチェックを行い、支援に関する相談を実施 (桜ホーム)
- 総合事業のサービス利用について丁寧に説明し、自立を目指すことの理解を得るよう努めている。 (きたながいけ)

6 認知症を正しく理解し適切に対応できる環境づくり

〈自己評価の視点〉

市認知症ケアパスの活用 専門的なサポート体制の強化 認知症高齢者(家族)支援体制の強化

《業務実施事例》

- 住民自治協議会福祉部会との協働によりサポーター養成講座を開催した。 (博愛の園)
- 地区内のオレンジカフェに毎月関わり、相談支援体制をとっている。 (安茂里)
- オレンジカフェの立ち上げに協力し、その後も毎回相談支援に関わっている。地区内のカフェ運営協力者を募集 (安茂里、にしつるが)
- オレンジカフェを介護者家族や若い世代にも参加しやすいように土曜日の開催とした。カフェの後方支援を新規の相談窓口としての機能も併せ持った。 (ニチイケア)
- 認知症初期集中支援チームへの相談と同行訪問の実施 (星のさと)
- 介護者教室としてオレンジカフェを開催。小グループを作り、同じ悩みを持った家族同士、加えて専門職と喫茶をしながらつどいを開催し好評を得た。 (星のさと)
- 地区内の小学4年生と中学1年生に対し、認知症について系統だてて学べるようにプログラムを工夫したサポーター講座を開催した。 (豊野)
- オレンジカフェに毎月参加し、認知症の人や家族、対応するボランティアスタッフに対し相談支援の協力をした。 (富竹の里)
- 事例検討をグループワークで実施しセンターが相談窓口であることを周知したことで、民生委員からの相談が増えている。 (松代総合病院)

7 地域ケア会議

〈自己評価の視点〉

個別ケア会議の実施 地域ネットワーク会議の実施 長野市ケア会議への検討

《業務実施事例》

- 民生委員会会議で地域課題の聞き取りを実施した。あた、課題に対しては同行訪問等を実施し必要なサービスに結び付けている。 (博愛の園)
- 本人、親族等地域の関係者、介護支援専門員、成年後見センター職員等目的に応じた関係者を参集して適宜行なった。 (安茂里)
- 主治医を交えたケア会議を実施し、医療・介護の連携が図れた。 (ニチイケア)

8 地域における生活支援コーディネーターとの連携

〈自己評価の視点〉

- ①生活支援コーディネーター（地域福祉ワーカー）との連携による生活支援・介護予防の活動づくりを行っている。

《業務実施事例》

○住民自治協議会と協力し、介護予防リーダー養成支援を実施した。平成 29 年度から小地区単位での通いの場の創設に繋がった。歩いて通える場づくりに取り組み、運動だけでなく興味あることを楽しめるよう、手芸や麻雀等を中心に企画し、月 2 回の定期開催を開始し定着しつつある。

（ニチイケア）

○地域福祉ワーカーと電話やメールで情報共有を行い、顔の見える関係を構築中

（若槻ホーム）

○生きがいデイサービス事業終了後の新しい集いの場について「地区総合事業懇談会」として関係者を参集し検討した。

（豊野）

○地区内自主グループへ定期的に訪問し、活動支援を行なっている。介護予防教室受講者に「自主グループ化に向けての教室（かがやきひろば）」受講を促し自主グループ立ち上げを支援している。

（富竹の里）

○地区の役員会等で介護予防の場づくりについて、仕事を持つ役員の集まりやすいように夜間や土曜日に説明会を実施した。

（コスモス）

○買い物難民支援のために移動販売車を包括に呼び寄せた。

（芹田）

○地域福祉ワーカーとの連絡を密にしている。住民自治協議会主催のまつりにも参加・協力した。

（わかほ）

○地域福祉ワーカーと定期的に会議を重ね事業所等とも意見交換を実施

（きたながいけ）

6 その他

〈自己評価の視点〉

- ①市から委託を受けた介護予防に係る業務を適切に行っている。

《業務実施事例》

なし